

【令和6年度 学校関係者評価委員】

委員	氏名	所属	役職
委員長	鎌田 佳奈美	摂南大学看護学部	学部長
委員	木下 昌美	特別養護老人ホーム ファヴォーレ	法人本部長
委員	西尾 和人	近畿大学医学部	学部長
委員	笠井 千秋	近畿大学病院	副病院長
委員	今村 美生	近畿大学附属看護専門学校同窓会 礎	会長
委員	松島 祐樹	株式会社近大アシスト	総務部主任

2024年度 近畿大学附属看護専門学校
学校評価

1.評価の概要と今後の課題

基準1. 教育理念・目的・育成人材像
【評価の概要】 2024年度は教育目標と科目目標、単元目標のつながりと目標に紐づく評価について学生に浸透させ、教育目標をさらに周知できるよう取り組むことを課題とした。そのためには、各教員が担当科目について、教育目標と科目目標、単元目標がどのようにつながるのか、何を評価するのかなどを学生に発信することを目標として掲げていたが、教員全員が取り組めず、一部の科目にとどまっている。2025年度は専任教員全員での取組みを強化していく。 さらに学校全体として新カリキュラム評価の方法について、検討されていない部分があり、どのような方法で評価をしていくのが課題である。
【今後の課題】 ・カリキュラム評価方法についての検討。 ・講義と教育目標・評価とのつながりを授業を通して学生へ浸透させ、達成度を意識して教員・学生が講義や実習に取り組む。
基準2. 学校運営
【評価の概要】 業務の効率化、スリム化を目指し、学外教員の試験依頼や採点方法についての担当、方法を変更した。役割を明確に分担することで、重複が避けられるようになった。また、学内での教務委員会を統合し、会議を減らすこともできた。IT化、ペーパーレス化に伴い、情報共有がタイムリーにできるようになったことも効率化につながったと考える。 情報システムのIT化が進み、学生や保護者への成績や出欠状況などがタイムリーに発信でき、電話連絡等での時間拘束も減らす方向で規程を作成。業務のスリム化にもなったと考える。
【今後の課題】 ・業務に合わせた勤務形態の運用。時間外労働の減少を目指す。 ・委員会や学生規程の見直しを進め、さらなる効率化を図る。

基準3. 教育活動

【評価の概要】

教育目標に対する評価については、6つの教育目標についてのルーブリックを作成。1年次から3年次まで自己評価を実施。3年次の最終学年において、「科学的根拠な根拠に基づいた思考をもとに判断することができる」の項目において、到達度が60%台にとどまった。科学的根拠の必要性については十分理解できたが、自信をもつには至らなかったと考える。経験が少ない学生にとって、アセスメントが適切であったかを教員側から発信し、自信につなげる必要があると考える。

教員の教育力向上に対して、2024年度は学内研修として、IT化を活用するための研修、講義・演習の手法としての研修、実習指導に関する研修を実施。授業評価の回収率が低いままなので、これらの研修の評価も難しい。授業評価の回収率を上げるとともに、教員間での授業研究も進めていく必要がある。

【今後の課題】

- ・教育目標の自己評価達成度を上げていく。
- ・教員間での授業研究を積極的に進めていく。

基準4. 学修成果

【評価の概要】

2024年度卒業生の国家試験の合格率は100%、就職率は100%となった。就職試験が不合格になった学生へは小論文の添削や面接指導だけでなく、メンタルケアも実施。就職先が決定するまで支援を行った。進学者はなし。

国家試験に対する取り組みとして、1年次から同じ業者のe-ラーニング教材を使用。日常の学習習慣の定着を目指した。1年・2年次は国家試験を見据えた学習会を空きコマを利用して行う、学生全体の苦手科目を復習するなど、学年全体での国試対策を実施。3年次は模擬試験等で学力を図りながら、学習時間・方法など、学力に合わせた内容を実施。今年度の国家試験合格率が100%となったことから、一定の評価を得た。

卒業時の学生の技術習得度について、主な実習先、就職先である近畿大学病院とは共有している。卒業後、その技術力については就職先から評価をいただくことで、学内での教育評価につながると考える。教育目標の自己達成度についても共有の場を設ける。

【今後の課題】

- ・国家試験対策については、3年間を見据えた計画立案
- ・卒業生の就職先における評価方法の検討（継続課題）

基準5. 学生支援

【評価の概要】

就職に対する支援は1年次から就職専門業者の協力を得て実施。自己分析の方法や就職先選択方法、エントリーシートの書き方、面接対策などを説明。「看護マネジメント論」の授業展開としてキャリアマネジメントを入れ、実際に働いている専門・認定看護師に役割などを話してもらっている。

留年や科目不合格は前年度と比較して若干減少しているが、再試験受験者は減少なく、科目によっては増えている場合もある。日頃の学習支援対策も具体的に検討が必要である。

合理的配慮の義務化に対する対応について、学生個々の状況を学内教員で共有し、対応方法については、必要時には実習先にも共有している。会議では、対応を協議することや本人、保護者への説明する仕組みを検討するとよいとアドバイスを受けた。このことから合理的配慮が必要な学生への対応については検討していく。

【今後の課題】

- ・ 学習困難学生への対応体制の整備、留年生、科目留年生の減少を目指す。（継続課題）

基準6. 教育環境

【評価の概要】

IT化の促進として、資料、提出物などはGoogleDriveやGoogleclassroomを活用。教室にはPCを常設した。また、学生の個人情報の保護のため、教職員のPCも施錠できるロッカーに収納するようにした。

図書室にはラーニングコモンズを増設。実習室での自己練習も予約は必要であるが、空いている時には使用できるようにしている。

備蓄については、補助金や予算立てをし、進めていけるよう準備している。

【今後の課題】

- ・ IT環境を利用した教育方法の充実（継続）
- ・ 学生・職員用備蓄の整備計画立案（保管と用品の準備）

基準7. 学生の募集と受入れ
【評価の概要】 2024年度の学生募集対策として、オープンキャンパス、受験対策講座、看護学生体験などを実施。また、ホームページやInstagramで学生生活の様子を発信。教職員による高校訪問などを密に実施し、学校についてのアピールを実施。それでも受験生は減少したが、定員は確保できた。令和9年度以降、募集停止が受験生にとってはマイナスのイメージだが、今後も魅力ある学校としてのアピールをしていく。
【今後の課題】 ・ 当校（専門学校）の魅力発信（オープンキャンパス、HP等）
基準8. 財務
【評価の概要】 財務基盤を安定させるために中長期計画を策定している。 学園の経理規程に則り適切に予算執行のうえ、財務帳票を作成し、ホームページに財務情報を公開している。
【今後の課題】 ・ 学校の魅力をアピールし、志願者を増やし、定員を確保する。（継続課題）
基準9. 法令等の遵守
【評価の概要】 看護師養成所運営ガイドラインに則り、教員数の確保、環境整備を努めており、学校の教育・運営に関する情報は教育要項ならびにホームページに公開されている。権利擁護は近畿大学ハラスメント防止ガイドラインに基づき、学生への周知ならびに対応が図られている。今年度より、ハラスメント調査を定期的を実施。学生から早期に情報収集し、できるだけ早い対応をしていった。またハラスメントの内部規程を作成。問題が発生した場合には、規程に基づいた対応ができるよう整備した。
【今後の課題】 ・ ハラスメント対応規程による運用 ・ ハラスメントや個人情報保護に関する啓発活動の強化（継続課題）

基準10. 社会貢献・地域貢献

【評価の概要】

オープンキャンパスと同時開催で、地域交流会を実施。近隣の幼・小学生を対象にイベントを開催した。地域への発信方法が手探りの状態であり、参加人数が少なかったため、今後はもっと広く発信できるよう、方法について検討していく。

社会貢献としては、大阪府が実施している「看護教員養成講習会」の受け入れを行った。一人でも多くの看護教員を養成し、看護教育の充実が図れる支援ができればと考える。また、大阪府看護協会が実施している実習指導者講習会の講師も行うなどしている。学生のボランティアとしては、実習先の老健施設の夏祭りなどの手伝いに参加している。

【今後の課題】

- ・ 学生の主体的なボランティア活動に向けての制度検討（表彰制度、ポートフォリオでの可視化など）。
- ・ 地域連携に関する検討（継続課題）

2. 評価結果

評価は次のとおり 数値化した。

適切：4 大体適切：3 やや不適切：2 不適切：1

項目	学校評価平均値	自己評価平均値
基準1. 教育理念・目的・育成人材像	3.35	3.1
基準2. 学校運営	3.4	3.3
基準3. 教育活動	3.3	3
基準4. 学修成果	3.7	3
基準5. 学生支援	3.35	3.1
基準6. 教育環境	3	2.8
基準7. 学生の募集と受入れ	3.7	3.6
基準8. 財務	3.9	3.9
基準9. 法令等の遵守	3.9	3.6
基準10. 社会貢献・地位貢献	2	1.4

